

2020年10月18日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

詩編 130 : 5～6

ルカによる福音書 10 : 38～42

「必要なことはただ一つ ～マルタとマリア～」

<イエスさまの弟子の歩み>

イエスさまと弟子たちは、エルサレムへ向かう旅の途中です。イエスさまがエルサレムへ向かう理由は、十字架に架かり、復活し、その後、天に上げられるためです。救い主イエスさまは、苦難の道を通して、栄光をお受けになります。十字架の苦しみとご自分の死によって、神さまの救いのご計画を成し遂げられるのです。

わたしたちすべての罪を、神の御子であるイエスさまお一人が担い、償いのために十字架に架かり、わたしたちに罪の赦しを得させて下さる。そして、死から復活し、罪に滅びる予定だったわたしたちにも、永遠の命と復活の約束を与えて下さる。そして、天に昇られ、すべてを神さまの恵みの内に支配して下さる。イエスさまは、そのために今、エルサレムに向かっておられます。

そして、これまでのところでは、この救い主イエスさまと出会った人々。イエスさまの御言葉を聞いている弟子たち。そして救いの知らせを今、告げられている、ここにいるわたしたちもまた、まことに幸いだ。神の御子イエスさまが共にいて下さり、この方に担われ、救われ、生かされるあなたたちは、まことに幸いだ。そのことが語られてきました。

そして、前回の聖書箇所「善いサマリア人」の所では、この幸いに招かれた弟子たち、わたしたちが、どのようにイエスさまに従っていくべきかが語られていました。

それは、神さまの救いの恵みを喜んで、注いで下さる愛と憐れみに生かされていることを感謝して、わたしたちもまた、神さまの御心を思い、隣人に愛と憐れみをもって接していくこと。イエスさまが、倒れ、傷つき、弱り果てたわたしを深く憐れんで、ご自分の命を捨てても隣人となって下さった。その恵みを受けたわたしたちもまた、行って、憐れみの心をもって、困難の中にある人の隣人になりなさい。そのことが語られてきたのです。

そして、今日のマルタとマリアという二人の姉妹の話もまた、イエスさまの救いの知らせを聞いた者、神さまの愛に生かされ、「幸いだ」と言われた者が、どのように歩んでいくべきか、ということが語られています。

<迎え入れる>

さて、イエスさまと弟子たちの一行は、ある村にお入りになった、とあります。そこで、マルタという女がイエスさまを迎え入れました。

この「迎え入れる」というのは、単に宿として客を迎えた、という意味ではありません。

10：1でイエスさまは、七十二人を選んで、ご自分が行くつもりの方々のすべての町や村に二人ずつ先立って派遣された、とありました。そして10：8で「どこかの町に入り、迎え入れられたら、出される物を食べ、その町の病人をいやし、また、『神の国はあなたがたに近づいた』と言いなさい。」と弟子たちにお命じになっていました。

つまり、このマルタの村にも、イエスさまが来られる前に、弟子たちが遣わされていたのです。そして彼らは、「神の国が近づいた。」つまり、「救い主であるイエスさまが来られて、神さまが罪と死からあなたたちを救い出し、恵みの内に支配して下さいますよ」という、救いの知らせを告げたのです。

マルタはそれを聞いて信じ、イエスさまを救い主と受け入れた。だから、彼女は自分の家を提供し、イエスさまと弟子たちが来たら、「神の国」をこの町で宣べ伝える伝道の拠点としてもらうために、家を準備していた、ということなのです。

ですから、ここでマルタが「イエスさまを迎え入れた」というのは、彼女がイエスさまの救いを信じ、イエスさまを受け入れた者である、信仰者である、ということです。

マルタは、神さまの救いのご計画を信じ、イエスさまこそ、神さまが遣わして下さい、救いを実現して下さいの方であると受け入れた。そして、イエスさまに従いたい、お役に立ちたいと願ったのです。

<マルタとマリア>

さて、マルタは一所懸命準備をし、心を尽くして、精一杯もてなしをしました。不足があってはいけない、困ったことがないようにしないといけない、イエスさまに喜んでもらいたい、弟子たちが生き活きと働けるようにお手伝いしたい。そんな熱心な、健気な思いです。

しかし、そうこうしているうちに、マルタは心の余裕がなくなってきました。目の前のやるべきことに忙殺されていったのです。40節には、「マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていた」とあります。

この「もてなし」という言葉は、ギリシア語でディアコニア、「奉仕」という意味です。後に教会においては「執事」という役職に、このディアコノスという言葉が用いられています。神さまに仕える奉仕の業。神さまに献げる働きのことです。そしてマルタは、「せわしく立ち働いていた」とあります、この「せわしく」は、「気をとられる」という言葉です。

神さまに仕える。奉仕する。イエスさまのために働く。その業をしていたら、忙しくなって、せわしくなって、そちらに気をとられてしまった。忙しさに気を取られ、本来、心を向けるべきところから、マルタの気持ちが逸れてしまった、ということです。

一方、マルタにはマリアという姉妹がいました。彼女もまた、マルタと共に「神の国は近づいた」という知らせを聞いて、イエスさまを信じ、受け入れていたでしょう。

しかしマリアは、マルタが心をくしゃくしゃにして奉仕をしている側で、39節にあるように「主の足もとに座って、その話に聞き入っていた」とあります。

イエスさまは、マルタの家でもまた、神さまのご計画について、ご自分が成し遂げる救いについて、神の国、神の恵みのご支配について、弟子たちや町の人々に語っておられたのでしょう。このイエスさまの御言葉に、マリアは聞き入っていたのです。

「足元に座って話を聞く」というのは、ユダヤにおいては、師匠に弟子入りすること、先生について教わることを意味します。マリアは、イエスさまが語って下さる御言葉を、弟子の一人として、真剣に聞き、受け入れ、従おうとして、耳を傾けていたのです。

<必要なことは？>

それを見たマルタはイライラしたのでしょうか。わたしたちは、何だかその気持ちを想像できるのではないのでしょうか。マルタは間違っていることをしている訳ではありません。なすべきこと、彼女なりに正しいことをしている。それで忙しくしているのに、その横でマリアは何もしない。わたしだけに奉仕を押し付けている。マリアもこの家の者なのだから、わたしと一緒に働くべきじゃないか。わたしのことを、マリアはないがしろにしている。

そしてマルタはとうとうこのことを、イエスさまに訴えたのです。

「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」

イエスさまもイエスさまですと。あなたもわたしの働きを見て下さっていないのですか。あなたのために、こんなに忙しくしているのに、ただ話を聞いているマリアをそのままにしている。どうして注意をしてくれないんですか。あなたも、わたしをないがしろにされるのですか。マルタの心の不満、辛さ、怒りが、あっちにもこっちにも向いています。

イエスさまは、そんなマルタに、このように声をかけられました。

「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

このイエスさまのお言葉を聞くと、マルタは一所懸命頑張ってたのに、何だか可哀想だな、と感じてしまうかも知れません。イエスさまはマリアを庇われて、マルタの頑張りを認めて下さらなかったのでしょうか。マルタが一所懸命やっていたことは、必要じゃないと言われたのでしょうか。…決して、そうではありません。

イエスさまは、優しく、マルタの名前を二回、呼ばれました。「マルタ、マルタ。」

気持ちが逸れてしまっている、心が乱れてしまっているマルタを、呼び戻すかのようです。あなたの心を、まず、わたしに向けなさいと。

そして、言われました。「あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。」

イエスさまは、マルタの心をよくご存じです。マルタが、はじめに神の国の福音、救いの知らせを聞き、イエスさまを救い主と受け入れ、喜んでお役に立ちたいと思ったこと。イエスさまのために家を準備し、精一杯仕えようとしたことを、よくご存じです。

そしてそれは、とても大切な奉仕でした。決して必要ないものではありません。マルタがこの村でイエスさまや弟子たちのお世話をするには、イエスさまがこれからエルサレムへ向かわれ、救いの御業を成し遂げるために、とても大切な働きです。いうなればマルタは、イエスさまに奉仕することによって、神さまの救いのご計画の一端を担っているのです。

しかし、マルタは忙しさに気をとられ、心が乱れ、最も必要なことを忘れていた。それを、イエスさまはマルタに気付かせようとしておられます。イエスさまは言われました。「必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。」

つまり、必要なこと、大切なことは、マリアがしていることです。なすべきこと、必要なことは沢山あるように思われる。しかし、ただ一つ必要なことは、イエスさまの足元に座って、その話に聞き入ること。イエスさまの御言葉を求め、心を傾けて聞くことなのです。

<御言葉を聞くこと>

イエスさまの御言葉で語られていることは、神さまのご支配のことです。それはイエスさまの救いの知らせです。「わたしがあなたの罪を担うから、あなたは罪を赦される。わたしがあなたの死を引き受けるから、あなたは死から救われる。そして、わたしがあなたに命を与え、いつまでもあなたと共にいる。あなたは神さまのものだ。」

この良い知らせ、喜びの知らせ。今ここにイエスさまがおられて、それが語られているのです。まず、この御言葉に心を向けること。聞きたいと求めること。この神さまの語りかけに耳を傾け、受け入れること。すべては、ここから、始まるのです。

イエスさまは、ご自分が成し遂げられる神の救いを、一人でも多くの者に告げ知らせるために、マルタとマリアの村へ来て、御言葉を語っておられるのです。

この御言葉に喜んで耳を傾け、イエスさまが与えて下さる救いを、幼子のように受け入れること。これこそ、イエスさまが最も喜ばれることです。そして、マリアはそのようにしてイエスさまを迎えたのです。

マルタの、一行をお世話する具体的な働きは、とても大切で、必要なことです。

しかし、マルタはイエスさまの御言葉よりも、自分がしなければならないと思っていることの方が重要になってしまいました。イエスさまは今、御言葉を語っておられるけれども、わたしには、他にやらなければならないことがある。今は御言葉を聞くよりも、もてなしをする方が優先だ。そうして、御言葉を受け取るよりも、目の前のなすべきことの方に心を奪われていったのです。

マルタはイエスさまに、マリアが自分一人を働かせ、ないがしろにしていると訴えました。イエスさまも、自分をないがしろにしていると思いました。しかしマルタこそ、この時、イエスさまの御言葉をないがしろにできてしまったのです。

そうすると、人は自分の努力や、熱心さや、正しさを見つめるようになり、心が乱れ、思い煩い、認めてもらえないこと、労わってもらえないことに、不満を抱いたり、人を裁いた

りするようになってしまいます。

だから、イエスさまは、「マルタ、マルタ。まず、わたしの言葉に耳を傾けなさい。あなたへの救いの知らせを、しっかりと聞きなさい。わたしがあなたに与える恵みを、しっかりと受け止めなさい。それが一番必要なことだ。」と言われたのです。

イエスさまは、わたしたちに、何より御言葉を求めなさいと言われます。

わたしたちには、いつも、絶えず、何よりも一番に、御言葉が必要なのです。イエスさまの御言葉があるからこそ、救いの恵みがあるからこそ、イエスさまが共にいて下さる喜びがあるからこそ、わたしたちは心から神さまに感謝をささげ、イエスさまに従い、それぞれが与えられた力に応じて、喜んで奉仕をすることが出来るのです。

イエスさまの御言葉に聞き入っていたマリアも、ただ聞いただけで終わりはしないでしょ。イエスさまが「善いサマリア人」のたとえで、最後に「行って、あなたも同じようにしなさい」、と言われたように。この後マリアも「神さまの愛と憐れみをいただいた者として、あなたもまた行って、人を愛し、憐れみ、隣人となりなさい」と、送り出されていくことでしょ。

いつでもまず、わたしたちにとって一番必要なことは、礼拝でいただく神さまのみ言葉です。ここが、すべての始まりです。そして、わたしたちはイエスさまの足元で、御言葉を、何度も、何度も、求めたいのです。何度も、何度も、聞きたいのです。何でも、必要なのです。ここに、わたしの命の源、救いの源、喜びの源が、いつもあるからです。

わたしたちは日々の中で、奉仕においても、信仰の歩みにおいても、生活においても、すぐに心が乱れます。思い悩み、心が乱れ、気が逸れてしまいます。でも、そのような時、いつもイエスさまは名前を呼んで下さっています。

「マルタ、マルタ。あなたの心はわたしがよく知っている。しかし、必要なことはただ一つだけである。わたしの許に来て、わたしの言葉を聞きなさい。喜びの知らせを聞きなさい。あなたのためにわたしは来たのだ。あなたのためにわたしは語るのだ。」

マルタに対して、わたしたちに対して、イエスさまの愛の御言葉が語られています。

わたしたちが心に向けるべきは、わたしたちにただ一つ必要なのは、イエスさまの救いの御言葉です。

そして、わたしたちは、いただいた御言葉を、愛と憐れみを、新しい命を、心から受け入れ、感謝と喜びの奉仕を、自分自身を、神さまに献げていきたいのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

救いの御言葉をありがとうございます。御子イエスさまの救いの知らせを、わたしたちに告げて下さったことを感謝いたします。

わたしたちが、罪と死の支配から解放され、命の造り主であるあなたのご支配のもとにあること。イエスさまが来て下さり、わたしたちを担い、救い、共に歩いて下さること。この大きな恵みをいただきました。

わたしたちは、この計り知れない恵みに生かされている者として、まことに幸いな者として、イエスさまに心から従いたいと願います。しかし、いつも他のことに気をそらし、心乱れ、御言葉を、喜びを、簡単に忘れてしまいます。お赦してください。

神さま、どうか、いつもわたしたちに御言葉を下さい。イエスさまの御許で、御言葉に耳を傾けることが、わたしたちにとって、最も大切なこと、最も必要なことであることを覚えさせて下さい。そして、名を呼ばれ、御言葉を頂いたなら、喜びと感謝に溢れてイエスさまにお答えし、従う者となることが出来ますように。

イエスさまの御名によって祈ります。アーメン